

巻 頭 言

地域貢献について

公益財団法人北海道脳神経疾患研究所 理事長 中村 博彦

北海道脳神経疾患研究所医誌（脳研医誌）第23巻を無事刊行することができました。関係者をはじめ常日頃よりご支援をいただいている皆様方のご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。掲載論文は症例報告が多く9編と少数ですが、当院の医師が忙しい日常臨床の合間に一生懸命努力して書き上げた玉稿ですので、一読していただければ幸いです。

今回の巻頭言は「地域貢献」をテーマにいたしました。当法人は北海道知事管轄の公益財団法人ですから、北海道のために仕事をする責務があります。当法人の主要な業務は、モービルMRIによる脳の検診事業です。昨年は財政再建団体になった夕張市を含む道内21町村で2,356名の方々に脳の検診を行いました。私自身も病院から車で2時間程度しかかからない夕張での検診に参加しました。

夕張市は炭鉱が栄えていた昭和36年に11万7千人まで増えていた人口が、今では1万人を割り込み全国789市の下から3番目になっています。面積は763.2km²で鳥取市に次ぐ59番目ですが、ほとんどが山々で山間の小さな川に沿って集落があるだけです。人口密度は断トツ最下位の12.82人です。夕張市は人口が少ない割には全国的に名前が知られており、私が小学生の頃は夕張炭田が筑豊に次ぐ日本で二番目の石炭産出量であると習いましたし、メロンと言えば夕張メロンが美味しさ価格とも日本一です。また、「夕張国際ファンタスティック映画祭」として映画祭は存続していますし、高倉健・倍賞千恵子主演で、武田鉄矢が俳優になるきっかけとなった、山田洋次監督の不朽の名作で第一回日本アカデミー賞を受賞した「幸福の黄色いハンカチ」のロケ地としても有名です。

現在は石炭博物館のみ運営されていますが、今から十数年前にテーマパーク「石炭の歴史村」に子供たちを連れて初めて夕張を訪れました。ポタ山のある筑豊のイメージを想像していましたが、狭隘な細長い谷間の街並みで文字通りの炭鉱でした。こんな狭いところに十万人を超える人たちが本当に住んでいたのだと驚かされた次第です。東日本大震災で再び脚光を浴びましたが、蒼井優主演で富司純子も出演し第30回日本アカデミー賞を受賞した「フラガール」でも、フラガールの練習仲間が夕張に引っ越すために主人公と別れる悲しいシーンがあります。いかにも大変なところに移り住む感じで、以前福島から当院に初めて出張でいらした脳神経外科医も、北海道に出張すると言ったら親戚中から反対されたところばしてました。

夕張市は川に沿った細長い町なので、検診は3か所に分かれて行います。当法人から市に声をかけて検

診が実現したのですが、市の財政が破綻して住民サービスが低下したせいも、検診の希望者が定員の数倍もあると聞きました。私たちが出来ることは限られていますが、少しでもお役にたてればと考えています。

今年のモバイルMRI検診は、今金町(檜山)の復活と、新たに洞爺湖町(胆振)と日高管内のえりも町、様似町の4か所が加わります。日高地方は札幌までの交通の便が良いため、地域の救急車が患者さんを直接当院に搬送するなど毎年たくさんの方が外来を受診します。日高管内で検診を行うことは当研究所の長年の夢でしたので、今から大変楽しみにしています。検診の評判を聞いて参加する管内の町村が更に増えることを期待しています。

えりも町は襟裳岬が有名ですが、長男、次男とそれぞれ二人でドライブをしながら二度ほど訪れたことがあります。太平洋に突出した特異な地形で、晴れた風のない天気の日でも、岬に近づくとつれて風が急に強くなり不気味な感じがします。歌の内容が暗いのですが、島倉千代子の「襟裳岬」の歌詞「風はひゆるひゆる、波はざんぶりこ」通りの場所です。それでも森進一の名曲「襟裳岬」(岡本おさみ作詞、吉田拓郎作曲)のメロディに引かれて、「襟裳の春は何もない春です」と口ずさみながら長いドライブを続けました。

北海道の地方は確かに過疎化が進んでいますが、歌や映画、小説に数々登場し、その時々思い出が皆様方にもきつとあると思います。私自身が北海道を初めて強く意識したのは、旭川が舞台の三浦綾子原作「氷点」のテレビドラマです。私のような九州の田舎者とは全く感性が異なり、子供ながらに鮮烈な印象を受けました。昨年の直木賞作品「ホテルローヤル」も舞台は釧路ですが、同じように本州とは異なる北海道独特の雰囲気があります。

夕張は高速道路が完成して新千歳空港から近く、スキー場や野球場など立派な運動施設があるので、運動部の合宿には絶好の場所です。襟裳岬は行く道すがら静内には競走馬の牧場がありますし、桜の名所である二十間道路は桜のない時に訪れると戦前にタイムスリップしたような気分になります。様似町のアポイ岳は高山植物のメッカで簡単に登れます。もし気持ちに隙間のあるような時には、是非季節外れの北海道を訪ねてみてください。襟裳岬(森進一)の最後のフレーズ「寒い友達が訪ねてきたよ、遠慮はいらないから暖まってゆきなよ」です。

これからも身の丈に合った「地域貢献」を続けていきたいと思っています。